

◎主要な登山用具の移り変わり

登山用品も10年程度ではあまり大きな違いはないが50年単位位で見ると結構大きな変貌を遂げている。ここでは全部について表現しきれないが主な製品についてその変化を見て見よう。

変遷の主な理由は「軽さ」、「使い勝手の良さ」、「性能向上」であろう。登山用品はこれからもどんどん進化するであろうし、我々もそれに乗り遅れないように見守りながら、高齢者に負担の少ない用具の選択をすることが求められると思う。体の負担を軽くし、安全を守るのは用具だ。

①ザック類

最も大きい変化は一世を風靡した「キスリング」の衰退であろう。高齢者の方は懐かしく思われると思うが、昔は右を向いても左を見てもザックはキスリングであった。結構詰めこめ、使い勝手が良かった。横型の為、ヘツリ通過の場合多少難があった。それを見事にクリアしたのが現在の縦型スタイルである。また、生地進化により軽量で丈夫に仕上がっている。物によっては45Lで1Kg程のものもある。



キスリング



一般的なザック

②登山靴

これも定番のオールレーザーからナイロン等の化学繊維を組み合わせた製品も多くなった。しかし一番の変化は靴底であろう。昔の登山靴の靴底には鉄鋌が打ってあった。それなりの特徴もあったが、石の上を歩くと、スリップし易かった。その後、ビブラムがゴムだけの靴底を開発し、優れた歩行性が認められ瞬く間に普及した。鉄鋌付の底は姿を消した。それから水の透過を防ぐため、ゴアテックスを内側に張った物が普及し、更に化学繊維の組合せで随分軽くなった。



鉄鋌付登山靴



ビブラム底登山靴

③雨具

雨具の進歩も素晴らしい。昔はナイロン製で蒸れにより内部が汗で濡れてしまった。ポンチョ等もあったが、革命はゴアテックス等の微小多孔質の素材で、蒸れと防水を解決しつつある。まだ完全ではないが昔と比べれば随分進歩した。またセパレートタイプの普及により行動制約が少なくなり、雨の日の行動が楽になった。軽量化のあまり2レイヤー品も出てきたが3レイヤーが使い易い。



ポンチョ



セパレートゴア雨具

④ズボン

これも主役の座が変わってきた。キスリングとニッカズボンは一昔前の定番だった。今では長ズボンが一般的になった。靴下が安くなるし、ストレッチ素材が普及して足の伸縮に役立つようになった。また純毛の素材から撥水加工された素材に変わり水飛沫等の防水対策も進歩した。



ニッカズボン



一般的なズボン

⑤ストーブ

これも昔の主役が姿を消した。今は殆どがブタンガスを使ったガスコンロが使われているが昔は灯油や白ガソリンを使ったコンロだった。ラジウス、とかホエーブスと言ったコンロが主流であった。これらはメーカーの名前であり春夏秋冬を通して良く使われた。火力、燃焼時間等は問題なかったが、着火する時、予備加熱が必要だったり、燃料を気化させるためにポンプアップが必要だったり、燃料噴出孔を細い針で掃除をする必要もあった。また灯油が容器から漏れてザックの中がずっと臭っていた事もあった。でも火力の強さは今でも忘れる事は出来ない。特に冬はグオーという加勢が懐かしい。今のガスコンロのコメントは必要ないだろう。すごく便利である。



ラジウス



ガスコンロ

⑥ピッケル

昔は柄が木製であったが、今では殆どが金属製に変わっている。軽く、破損の心配がない事とその要因であろう。更に氷壁等の場合柄が変形しており、木製ではこれにも対応できない。ただ厳冬期、金属製ピッケルを素手で持った場合、皮膚が張り付く場合があり、注意を要する。全体的に軽くなったのはうれしい。



木柱ピッケル



金属ピッケル

⑦アイゼン

アイゼンバンドも含め大きく変わった。以前アイゼンと言えれば鍛造品が当たり前であったが、プレス品が登場して瞬く間に主役の座を占めてしまった。まずは軽さであった。ただでも冬は荷が重いのにこの軽量化はうれしかった。また靴への装着に関しても、ワンタッチ型が登場するなど、厳冬期の中での装着性能が格段に向上した。また簡易アイゼンであるが、4本爪は利用価値がなく6本を勧めたい。



鍛造アイゼン



プレスアイゼン